

CONTENTS ◆ 晩秋のつどいレポート1 ◆ おくさわ今と昔 ◆ 晩秋のつどいレポート2 ◆ 今後の会活動について  
◆ 活動報告 ◆ 最後の等々力三田邸をたずねる ◆ 活動報告 ◆ 会からのお知らせ

## 晩秋のつどいレポート 1

### 伊東豊さんのお話「園芸は人を幸せにし、仲間をつくる」



お話が始まると先生は紙袋から木の葉を取り出し出席者全員に一枚ずつ配り始めました。そして「これは「多羅葉(タラヨウ)」と言って、はがきのもとなんです。」



多羅葉に刻まれた「2009.11.29 伊東豊先生」の文字

は 10 日位経っても残っていました。

と仰言いました。尖った先で、書いて(傷つけて)みると、黒っぽい文字が現れました。この字

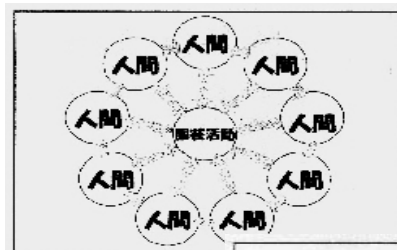
先生は「園芸福祉とは、農耕・園芸の効用を活用して人間の幸福などを増進しようとする」と定義され、芦花公園のホームから、デイホーム農園に月3回訪問者を迎え、ボランティアの協力で園芸作業を行う園芸福祉に力を入れておられます。この活動には、中高年のボランティアや子供や大学生が参加し、世代間の楽しいコミュニケーションも実現されています。

幸福論について；幸福は金では買えないという反省が世の中に出、国連も考え始めている。国民総生産(GNP)でなく、国民総幸福(GNH)をブータンは憲法に取り入れている。また環境面では江戸時代に学ぶべきものが多い。これら物から心の時代への変化には、植物・農耕を主体とするゆっくり、ゆったりとした生活で宝物(田からのもの)を見つける姿勢が大切。

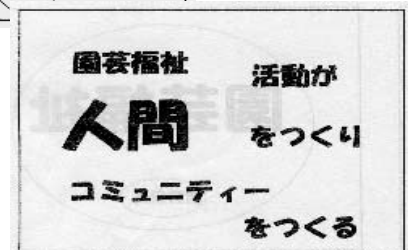
植物・農業に関する先生の博学ぶりは、単なる知識ではなく、デイホーム農園等での実践に裏付けられたもので、多くのスライドを使ってのユーモアを交えたお話は興味深く、お話の時間はあっという間に過ぎてしまった感じでした。(鈴木)

伊東先生は、現在東京農業大学大学校の副校長として中高年向けの花卉、野菜、果樹、造園講座の指揮をとる傍ら、深沢小学校南隣に土地を借りて、デイホーム農園をNPO法人GPS(Green People Spot)で運営なさっている、園芸大好きの心優しきヒューマニストです。

先生の教育や活動の原点は、園芸(植物、農業)は人を幸せにしかつ、人と人を結びつけるコミュニケーションを生み出し、理想的なコミュニティを作る事ができる点にあると思われます。



講演資料から



講演資料から

# おくさわ今と昔

## 大蛇みこしを始めた頃

奥沢二丁目 永野 健一

商店の集まりである共栄会のあとつぎたちがお米やさんの原さんとやぶ茂の沢野さんの呼びかけで始めたのが共栄会青年部です。43年前のことで、たしか16人位しかいませんでした。先代の奥沢神社の神主さんはガンコでしたが、青年部の良き理解者であり、会合には神楽殿を使わせてくれました。

いつものように神楽殿の中で車座になって石油ストーブを囲んでいると、数人の会員がみこしをかついできたと言い出しました（当時祭礼は10月でした）。

偶然、他の町内のみこしに出会ったら「かつげ、かつげ」むりやりみこしに引っぱり込まれたと言います。

共栄会は戦前からみこしを持っていなくて、子供の頃からみこしを見たことはあるのですが、かついでみたいなどはみんな思っていなかったのです。ところがみこしをかついできた会員たちは「とにかくおもしろい。みこしを作って自分たちでかつぎたい」と言い出したのです。

あまり熱っぽく語るのので、半信半疑で聞いていた他の会員たちも、みこしを作ろうじゃないかということになりました。手作りのみこしが作れるような手先の器用な会員はいませんし、当然、高価なみこしを買えるわけありません。

「樽みこしでもいい」というのですが、樽みこしを見たことがないのです。そこで僕の友人の父親のイラストレーターに頼んで樽みこしの絵を書いてもらいました。酒屋の会員が樽を借りてくる事になり、かつぎ棒は神輿蔵にある不用のを使う事でなんとか形になりそうでした。その時に鳥居にかけてある蛇と同じ物のみこしに巻きつける事も決まりました。

神社は蛇の作り方を若い人に伝えたい思いもあり、私たち青年部がその作り方を習いました。

最初は二斗樽が5本だったものが、数年後にひよんな事から四斗樽になってしまい、今の大きさのみこしになりました。

最初は自分たちの楽しみのために作ったみこしが町内の人気者になり地域の人々集まるきっかけになるとは思ってもいませんでした。みこしだけはかつでみなければその楽しさが分かりません。半天を借りれば誰でもかつげますので、ぜひ体験してみてください。

（このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。）

## 子育てのしやすい街・奥沢

奥沢二丁目 小澤一郎・真理子

私たち家族は去年9月、同じ東京都内から奥沢へ引っ越してきました。その大きな理由の一つは、去年12月に長男が誕生し、子供に良い環境の中で暮らしたいという思いがあったからです。以前住んでいたマンションは大通りに面し、騒音と排気ガスが大変なものでした。

家さがして初めて奥沢を訪れた時、目に入ったのが「土とみどりを守る会」の掲示板です。「こんな素敵な活動が行われているんだ」と安心して引っ越しを決めることができたように思います。

引っ越して間もなく、私たちはその掲示板に、街並みウォッチングの案内が貼ってあるのを見つけ、「もっとこれから住む街について知りたい」と参加することにしました。当日は、九品仏参道、ねこじやらし公園、大平農園などをめぐり、「都心の中にこんなにも多くの緑が残されているんだ」と驚きました。中でも印象に残っているのが、大平農園の横を通った時です。無農薬栽培のキャベツ畑一面には、見たこともないような数のモンシロチョウが舞っていて、「おとぎの国のよう！」と感動したことを覚えています。

緑のある道を散歩していると、とても気持ちがよく元気になりました。同時に、こうした環境を守るためには、多くの人の“思い”と“手入れ”が必要なのだ改めて実感しました。

道中、会のシンボルフラワーがチェリーセージであるというお話を聞きました。今ではベビーカーで街中を散歩する度に、「あ、この家にもあった」と小さな赤い花が次々と目に飛び込んでくるようになりました。それだけ多くの方々の「緑を守りたい」という思いが集まり、奥沢の街が作られているのだなと感じています。

「奥沢は落ち着いていて良い場所ですね」今年、ある知人から届いた年賀状に添えてあったコメントです。「私も街の一員として、そうした環境づくりに少しでも貢献できたら」そう思い、先日玄関先に小さな花の鉢植えを置くことにしました。花を育てるのは初めてですが、朝、水をあげる度に心が穏やかになるような気がしています。

# 晩秋のつどいレポート 2

## 岩田百郎さん 「懐かしのメロディーを歌おう2」

「今日は中山晋平の童謡を歌おうという趣向で12曲を選んでみました」と、お馴染みになった岩田百郎さんの元気のよい声で始まった1曲目は北原白秋作詞の「砂山」。当時は著作権などというものは無くて、この詩は山田耕作による作曲もあるとの説明でした。

「雨降り」「照る照る坊主」と歌いながら遠い昔の昇降口や軒端の光景が目には浮かびました。「背くらべ」「肩たたき」の後は中山晋平の話。「船頭小唄」「東京音頭」「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」など多彩な作品を遺したと共に、西条八十・野口雨情・北原白秋などの童謡の作曲に心血を注いだこと、師と仰いだ島村抱月の女性問題で苦勞したことも話題になりました。

「こがね虫」「しゃぼん玉」「うさぎのダンス」「あの町この町」と続き、「證城寺の狸囃子」では證城寺が

千葉県木更津にあると教えられました。雨情の詩を勝手に「證々證城寺・ツツ月夜」と変えてしまったそうです。「南京言葉」は、メロディーを聞いて”こんな歌も歌ったなあ”となつかしく思い出しました。童謡の締めは「蛙の夜廻り」、ガッコゲッコピョンと繰り返しながらますます楽しい気分になりました。

”何で童謡なの？”と首をかしげた向きに一と、昭和4年に西条八十作詞・中山晋平作曲で大ヒットした「東京行進曲」と、吉井勇作詞の「ゴンドラの唄」を歌いました。東京行進曲のヒットによって銀座通りに柳が植えられたという話も面白く、ゴンドラの唄は歌いながら、ひどり公園のブランコに揺られながらこの歌を口ずさむ映画「生きる」の志村喬の姿を思い浮かべました。楽しい時間は東の間に過ぎてしまいました。明るい余韻を残して終了しました。(柳島)



## 今後の会活動について

当会は2008年に設立10年が経過し、NPO法人となり名実ともに責任のある団体として活動を充実させてきました。この間一貫して、・地域のみどりの保全・地域の良い街並みの保全・地域の歴史や文化の発掘、交流・安全な地域環境の維持に関わる活動を進め皆様と共に心安らぐ街づくりを目指してきました。

現在の活動は、年4回のつどい、同じく年4回のニューズレターの発行、地区祭りのような町会活動へ参加し、また区の街づくり活動では、風景づくり活動団体登録、土のみどりのまちづくり宣言の登録、地域風景資産の選定(大ケヤキのある散歩道、奥沢海軍村ゆかりの風景)等に参加してきました。

しかし最近になり、設立当初から余り変化のない運営体制、会活動のマンネリ化により、会員や地域の皆様のご要望に沿う活動が出来ているだろうかという反省があがり、会内部で新しい活動や活動メンバーの拡充についての議論を始めています。いくつかのアイデアが挙げられています。

- ・活動では：落葉掃きボランティア、樹木の隣家苦情相談や助言、奥沢歴史探検(遺跡調査、プラタモリ奥沢版)、自分史講座、奥沢の文学、芸術の調査、合唱サークル等等
- ・活動形態では：有志による小グループ活動を小さな場所を借りて行う、その時に会活動の議論も進める。

まだまだ議論の段階ですが、ご関心をお持ちの方には是非お入り頂いて、皆様のご希望に添える会活動を育てて行きたい、ご参加をお待ちしています。(鈴木)

## ある古民家の最後の姿をたずねる

世田谷区内在住のAさんからの誘いで訪ねました。Aさんのお家は江戸時代からの農家でしたが、昨年お母様が亡くなられ、相続税納付のために自宅のある土地2,700m<sup>2</sup>（約800坪）を売却されました。解体前の家と庭を見学させて頂きました。

樹齢百年を超える区の保存樹木が数本あり、江戸末期に建てられた茅葺（今は瓦葺きのように加工された銅張屋根）の母屋と蔵、井戸を屋敷林が囲んだ鬱蒼とした庭でした。特に巨大なタイザンボクが庭のほぼ中心に堂々と立っており壮観でした。



（保存樹木のタイザンボク、後ろは母屋と蔵、昔の母屋（中は茅葺の頃、右は瓦葺根風の銅張屋根；Aさん提供）

以前から当会の活動に共感を持ち、大ケヤキを残す運動の時は支援をして頂いたAさんご兄弟は、昔の建物の写真を貸して下さい（下図参照）、関東大震災の時にびくともしなかった蔵の中まで案内してもらい、昔懐かしい農具や生活用具を見せて頂き、少年の時代の思い出を語ってくれました。

修理の手を入れれば十分に古民家と屋敷林のある文化財公園ができるのに惜まれます。相続や街づくり制度の限界とは言え、ご兄弟のやりどころのない気持ちがひしひしと伝わってきました。（鈴木）

## 活動報告

- ロイヤルライフ奥沢（奥沢駅南口大脇病院隣にある介護付き有料老人ホーム）玄関前の花壇（「みどりの広場」）の花壇改善は11月23日に完成しました。ガーデンシクラメンやクリスマスローズが咲いています一度ご覧を。
- 今年の奥沢地区祭りは1月17日（日）、奥沢中学校で行われました。当日はやや寒さも緩み快晴に恵まれて多くの参加者がありました。当会は例年通り、パネル展示、グリーンマップ、チェリーセージ苗の頒布を行いました。
- 世田谷生涯大学の「世田谷の街を知る（生活）講座」（講師 稲垣道子さん）の皆さんが、1月20日に街づくり活動の校外学習で訪問されました。「大ケヤキのある散歩道」と「奥沢海軍村ゆかりの風景」をご案内しました。
- みかもで「近代建築を知る会」が、1月21日に開催され、せたがや街並保存再生の会の松田宏さんのお話に続き、当会から海軍村の歴史と現在について説明しました。
- NPO提案型協働事業は、「旧玉川村街並みウォッチング」に続き、もう一つの計画である「住宅地のみどり保全活用ガイド」マニュアルを作成中で、一般住宅地のみどりを守り育てるためのノウハウとアイデアを紹介します。

## 会からのお知らせ

- 早春のつどいは2月6日午後1時30分から、奥沢東地区会館で催します。第1部はノンフィクション作家平野久美子さんに、台湾に遺されている日本人住宅とそれにまつわる物語をお話して頂きます。第2部は浦沢正恵さんのピアノ演奏です。曲はショパンなどお馴染みのもの、皆さんで歌う曲も用意しています。どうぞお誘い合わせてお出掛け下さい。
- 土とみどりを守る会は、いつでも新会員を募集して

います。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。御入会のご連絡は下記まで。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126  
世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558  
ホームページ : <http://tsuchimidori.net>  
e-mail : [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)